２．極小未熟児の就学前の発達と就学後の発達

分担研究者　前　川　喜　平

極小未熟児の発達で、現在問題となっていることの一つに、小学校入学後の発達がある。平成５年度の研究で、我々は極小未熟児の40％以上が就学前では学習障害リスク群であるという結果を得た。すなわち、就学前発達テストで、ＩＱが境界のものや、ＩＱが85以上でありながら、行動上に問題のあるものや、ＩＱが85以上でありながら、ＰＩＱとＶＩＱに15以上差があるものが40％以上存在した。そしてこれらの子ども達が、小学校入学後、どのようになったかは非常に興味があり、かつ重要なことである。そこで、我々は就学前に発達チェックをおこなった極小未熟児に対し、就学前にみられた問題が、就学後どのように変化するかをみるために就学後再び発達チェックを施行した。

また、極小未熟児の就学前発達、幼児期前期の言語発達、学習障害などについても括めた。

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

2.極小未熟児の就学前の発達と就学後の発達

分担研究者前川喜平

極小未熟児の発達で、現在問題となっていることの一つに、小学校入学後の発達がある。平成 5 年度の研究で、我々は極小未熟児の 40%以上が就学前では学習障害リスク群であるという結果を得た。すなわち、就学前発達テストで、IQ が境界のものや、IQ が 85 以上でありながら、行動上に問題のあるものや、IQ が 85 以上でありながら、PIQ と VIQ に 15 以上差があるものが 40%以上存在した。そしてこれらの子ども達が、小学校入学後、どのようになったかは非常に興味があり、かつ重要なことである。そこで、我々は就学前に発達チェックをおこなった極小未熟児に対し、就学前にみられた問題が、就学後どのように変化するかをみるために就学後再び発達チェックを施行した。

また、極小未熟児の就学前発達、幼児期前期の言語発達、学習障害などについても括めた。